

平成21年4月1日

いしかわ農地・水・環境協議会

## ■農道法面へのヒメイワダレソウの植栽について

### 県央支部 【若緑を守り育む会】



かほく市の「若緑を守り育む会」では、農道や水路の法面への防草及び景観対策としてヒメイワダレソウの植栽を行いました。

ヒメイワダレソウは、クマツヅラ科の多年草で草丈は5cmから7cmと短いですが、根は40cmから60cmと深く、繁殖力が強いため1個のポット苗は早ければ2~3ヶ月で約50cm四方に広がります。また、5月から10月にかけて白く小さい可憐な花が無数に咲き続ける地被植物で、雑草抑制や景観形成に最適な緑化植物です。

7月上旬に農道法面約300mにヒメイワダレソウ約600ポットを植栽しました。防草シートを敷設して、シートにポット苗の穴を開けて植え付けて行きます。

開花時には、綺麗な白い花の絨毯がのり面全体に広がる予定であり、高齢化が進む中での草刈り作業等が省力化されることを期待しています。

## ■冬水田んぼ実施中

### 南加賀支部 【鴨池周辺地域資源保全会】

加賀市の宝であるラムサール条約湿地の「片野の鴨池」には、毎年秋になるとたくさんのガンやカモが大陸から渡って来ます。水鳥たちは鴨池をねぐらとし、周辺の田んぼを餌場として生活しています。

この片野鴨池に近い当地域では、鴨の餌場となる田んぼに冬期湛水を行います。これが「冬水田んぼ」です。実はカモたちは田んぼに水がないと餌を食べることが出来ないからなのです。

12月21日、保全会のメンバーと小学生・保育園児ら40名および日本野鳥の会のレンジャーら3名が参加し、冬水田んぼの作業を実施しました。

子供たちが用水のバルブをひねると、(写真)

勢いよく水が飛び出し、合計6.7ヘクタールの田んぼに水が満たされていきました。

片野鴨池が江戸時代から今日まで、水鳥たちのねぐらとなってきたのは、鴨池周辺にこのような田んぼがたくさんあったからなのです。

保全会では田んぼが果たしてきた役割を知り、郷土の生態系について学びながら、加賀市の宝である片野鴨池を守っていくこの活動を、今後も続けていく予定です。



## ■施設の長寿命化について 奥能登支部【山口「みどりの里」保存会】



能登町山口地内において、地元住民の協力の下、31名が参加して施設補修に取り組みました。(写真)

水路の長寿命化を図るため、目地詰めやU字溝を再利用して水路の補修を行いました。

補修個所は点検活動で把握し、必要と思われる個所をピックアップしました。

今回の補修作業によって、施設の長寿命化を図ることに成功したと思います。

これからも目地詰め等の補修を行い、地区全体の施設をカバーしようと思っています。

## ■遊休農地で地域おこし

### 中能登支部 【グリーンファーム+196】

七尾市田鶴浜町伊久留（いくろ）地内では、農業者の高齢化や不在地主の増加により、遊休農地が目立つようになりました。こうした状況を踏まえ、将来にわたり農地を守るために「グリーンファーム+196（いくろ）」を設立しました。

主な活動内容は、遊休農地の位置や所有者などの情報を管理し、遊休農地を適切に管理するように所有者にお願いしています。不在地主で自ら農地の管理ができない場合は、担い手へ農地集積してもらうよう斡旋したり、組織が草刈りを代行して農地保全に努めています。

また、遊休農地にひまわりやコスモスを植えて、夏には満開となったひまわりを無料で配布する収穫体験を行い、地域住民の皆さんへ環境意識の高揚を図っています。

このほか、集落の年齢横断的な人材で組織する「にこにこ農園196」が遊休地を利用し、低農薬で栽培されたジャガイモやサツマイモを、近くの保育園児や子ども会と一緒に収穫体験や（写真）、公民館と連携して収穫祭を開催するなど遊休農地の有効利用に取り組んでいます。



### 【編集後記】

平成21年度の活動がスタートしました。今年度の活動がスムーズに運べるよう早めに活動計画の取り決めを行い、住民みなさまが参加できる活動を積極的に行っていただきますようよろしくお願いいたします。今年度も活動組織みなさまからの投稿をお待ちしております。

〒920-0362 石川県金沢市古府1丁目197番地 石川県土地改良事業団体連合会内

いしかわ農地・水・環境協議会

事務局：中 正樹

TEL : FAX 076-249-8191

E-mail : [ishikawa@shigenhozen.jp](mailto:ishikawa@shigenhozen.jp)